

標準仕様(案)のとりまとめ状況 の概要

※ 「標準仕様(案)」は「位置情報基盤を構成するパブリックタグ情報のための標準仕様(仮称)(案)」を示す。

平成28年3月3日

第3回位置情報基盤WG
資料1 より 抜粋・再掲

1. 委員・構成員からのご意見及びご指摘事項

(1) パブリックタグ情報登録の実例と抽出された課題

- 標準仕様(案)に沿った登録の実例を提示する。【第3回WG済】
- 机上実験でも良いので、代表的な事例をサンプルとして登録して、仕様を決めていく。【第3回WG済】

(2) 登録の間口の拡大

- 地図上で緯度経度を取得できる事を明示する。【第3回WG済】
- 地図からパブリックタグを登録できるシステム作成を検討する。【引き続き検討】
- (登録の間口を広げるため)緯度経度による登録を必須としない方がよい。【第3回WG一部済】 【引き続き検討】

(3) 多様なタグの種類への対応

- 様式Bのタグの種類のうち「その他のタグ」について、可能な限り細かく分類する。【第3回WG済】
- 様々なタグの技術仕様の在処を、リンク先の記載などにより示す。【第3回WG済】

これまでの課題の整理

(4) タグ管理の仕組みについて

- タグ管理の仕組みについて、設置者の管理の動機付けの方法を含め検討が必要。

【引き続き検討】

(5) 国際標準化について

- 標準仕様(案)の国際標準化を目指すための検討が必要。

【引き続き検討】

2. 第1回WG資料にて示した取り組み内容の項目

(1) 精度向上に向けて

- 屋内測位に関する技術動向を調査し、屋内測位手法の特性、利用方法とその利用目的に応じた精度等を整理。 【第3回WG済】
- その精度を担保することを可能とする補正手法について調査、検討。(人の移動履歴等の情報処理による補正、位置情報基盤へのアクセス情報の活用、マップマッチング等) 【第3回WG済】

(2) シームレス測位に向けて

- 複数の測位手法を並行に処理する、又は、適切に測位手法を切り替えることによるシームレス測位手法を検討。(複数測位手法の選択処理) 【第3回WG済】 【第4回WG報告】
- それらの手法の処理フローについて検討。

3. 第2回WG資料にて示した課題等

(1) 緯度、経度、高さ(階層)を用いない位置情報の取り扱い

- 地物の固有名詞や図面等の局所的座標、画像など、位置を特定可能な様々な表現で登録する。 【第3回WG済】 【引き続き検討】

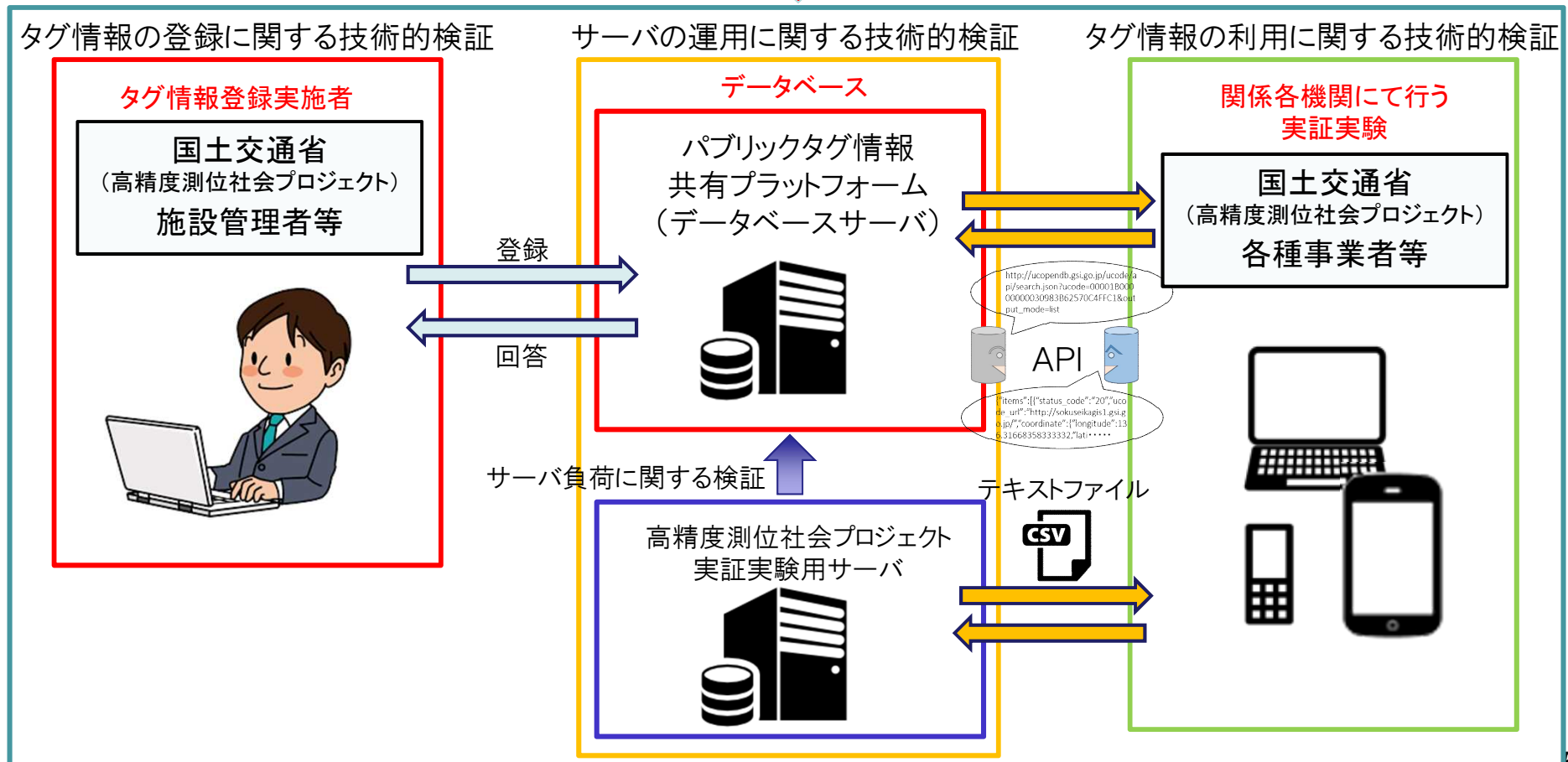
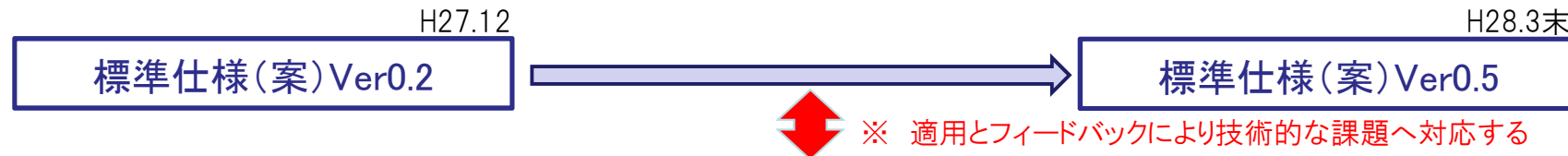
(2) アクセス情報の取り扱いに対する課題

- アクセス情報の活用によるパブリックタグ情報の品質向上やパブリックタグの設置に対するインセンティブの付与について、技術的、制度的(プライバシー等)な課題の整理や検証が必要。 【引き続き検討】

標準仕様(案) Ver0.5策定に向けた全体像

- 関係各機関にて行う実証実験における標準仕様(案)の適用を受け、フィードバックに基づく技術的な検証を行い、その結果を踏まえ標準仕様(案)Ver0.5を策定する。

第3回位置情報基盤WG
資料3 より 抜粋・再掲



■ パブリックタグ固有ID

- タグ固有IDに重複が生じるとしても、任意のIDによる登録を可能とすべきであるかについて、現状と考え方を整理した。

■ パブリックタグ情報共有プラットフォーム

- APIによる位置情報サービスの利用に際して、API検索機能の応答性能に関する調査を実施した。

■ 位置情報サービス提供者及び利用者へのアンケート

- 東京駅P等において位置情報サービス提供者及び利用者へのアンケートを実施していただき、その回答をとりまとめの上、整理した。